

第 56 号

発行
福岡県地域婦人会連絡協議会
〒812-0046
福岡市博多区吉塚本町13-50
発行責任者 木下 幸子
TEL 092-643-1440

- *家庭・地域の教育力を高め、青少年の健全育成に努めよう。
- *審議会等政策決定の場へ女性の参加を促進しよう。
- *循環型社会をめざし、地球環境を守ろう。



『利他の心』

福岡県地域婦人会連絡協議会

会長 木下 幸子



新年明けましておめでとうございます。皆様方のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行し、ようやく日常生活や婦人会活動への制約が軽減され、活気を取り戻した一年となりました。今年はコロナ禍で希薄になった人と人との絆を深め、ぬくもりのある社会を再構築する一年にしたいものです。

世界に目を向けますとロシアによるウクライナ侵攻は長期化し、終結の兆しも見えません。また、イスラエルとパレスチナ間の紛争も激化し、連日のように悲惨な現地状況が報じられ胸を痛める日々が続いております。

さて、先日、大会テーマを「『自然』そしてあらゆる人々との共存をめざそう！」と『利他の心で』とした第75回九州地区地域婦人大会が鹿児島県で開催されました。サブタイトルである「利他の心」とは、「自分のことよりも他人の幸福を願うこと。自分を犠牲にしても他の人を助けよう。」という心のありようを言います。

今、世界中で起きている紛争については、それぞれに複雑な歴史的背景等を持ち、理想とされる世界平和には程遠い現実がありますが、厳しい状況下でも、利他の心で医療や人命救助に尽力している人々、停戦合意に向け奮闘している関係機関など、一人一人の行動により遠くから安寧な日々が戻ってくることを願ってやみません。

一方、日本においては、外交問題に加え、少子高齢化に伴う働き手不足の問題、社会保障費用の増大など、これまでに経験したことのない社会状況に直面しています。

県婦連といたしましても、会員の高齢化や会員数の減少傾向が続いておりますが、それぞれの地域課題の解決に向け、会員の一人一人が利他の心で誠実に活動をしていれば、必ず賛同してくれる人の輪は広がってくれらるものと確信しています。

歴史ある婦人会を次代に繋ぐために、明るく、元気に、そして楽しく、様々な課題を解決していきましょう。皆様、本年もどうぞよろしくお願いたします。

福岡県地域婦人会連絡協議会

令和5年度総会・研修会について



6月1日、ご来賓福岡県副知事、大曲昭恵様を始め、教育関係者の皆様のご出席をいただき無事総会を終えることができました。

しかし、残念なことに、いつも笑顔で元気でした木下幸子会長が病気のため欠席されました。

研修会では、鷹鳥屋神社の神職をされてあります、矢野大和先生でありました。タイトルは「生涯現役のすすめ」で笑って元気に過ごしましょうとエールをいただきました。また、笑いを入れた自分の経歴と活動は、おもしろく、大変役に立ちました。

矢野先生は、昭和31年生まれで鷹鳥屋神社の宮司の長男として生まれ、大学卒業後、宮司としては生活ができませんでした。宇美町役場に就職され教育委員会、生涯学習の仕事をされ平成七年、道の駅「うめ」の初代店長を任命され「イノシシラーメン」を考案されました。すると、5年間で2億円になり、宇美町に寄付することになりました。

そんなことがあり、当時の町長に宇美町を広めるため、「観光大使」となり、口演活動をされました。

矢野先生は、日本の高齢者は、もっと自信を持たなくてはなりません。自分が社会の一員であることを自覚し、社会の役に立つことを考える必要があります。その第一歩が教育（今日行くところを考える）と教養（今日用事を考える）です。今日行くところがある。

今日することがある。それが社会参加に繋がります。認知症予防になるのです。との口演でした。口演を終えて、考えてみますと、日本の神様は、日本人の活きる底力になっっているのだとわかりました。そして、「人権の基礎」は、相手をほめる余裕がないとできないこともわかりました。

身近な話題を笑い話で活かすと喜ばれる。そんな言葉のコミュニケーションの力を身に付け、婦人会の底力を発揮していきましょう。



令和5年度(2023年) 受賞おめでとうございます

くるめ「小さな親切」運動の会40周年とくくるめ市ふれあい都市推進協議会35周年の記念式典がありました。

永年の都心部道路美化活動に対し表彰されました。

新任の挨拶

事務局長 毛利真郷

7月1日付けで新たに事務局長を仰せつかりました毛利真郷と申します。3月に県立学校の事務長として定年退職を迎え、当分は職務から離れるつもりでしたが、お声掛けをいただき、何かしらの人助けになるならばと、事務局長職をお引き受けした次第です。

私の役割は婦人会の運営サポートですが、皆様のご意見を傾聴し、充実・発展の一助となるよう努力してまいります。至らぬ点多々あるかとは思いますが、皆様どうぞよろしくお願いたします。

就任の挨拶

事務局 西藤彰信

8月に退職されました山崎さんの後任の西藤(さいとう)です。

日本赤十字社を平成31年に定年退職し、おんとし67歳になります。

赤十字在職中は、地域奉仕団として木下会長をはじめ婦人会のみなさまには、「赤十字」と「地域」の懸け橋を担っていただけでなく、たいへんお世話になりました。

このたび縁あって婦人会事務局に勤めさせていただきます。微力ではございますが、赤十字で培った「人道、博愛」の精神をもって、できる限りの恩返しができるばと思っております。

ご指導のほどよろしくお願いたします。

退任の挨拶

事務局職員 山崎君代

平成2年2月1日から令和5年8月31日まで長年にわたり県婦連にお世話になりました。これまで、木下会長をはじめ多くの地域婦人会会長様に育てていただき、心から感謝しております。今後の会員の皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。またどこかでお会いしましょう。

新任の挨拶

久留米市女性の会連絡協議会

江上 昭子

令和5年度より会長に就任いたしました。毎月、定例委員会に出席することにより地域活動等をお聞きし、勉強させて頂いております。今後、出来ることがあれば皆様に教えて頂きながら頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

退任の挨拶

福岡県地域婦人会員の皆様

婦人会は大切な宝物です

久留米市 池田 博子



私が婦人会という団体があるということを知ったのは平成元年4月で39年間務めていた小学校教師を退職した時のことでした。

町内の婦人会代表が「今年から婦人会代表になって下さい。」と依頼に承知しました。私は39年間自宅と学校の往復でしたので即お断りいたしました。その時夫が「今迄39年間あなたは、自宅と学校の往復ばかりで地域のことは何もしてないだろう。これから地域へ恩返しをすべきではないか。」と思いがけない言葉にいきめられ、強く説得されました。それから校区の婦人会から女性の会へと関わってきました。

それから16年間、「久留米市女性の会長」、さらに「福岡県地式婦人会連絡協議会」へと参加いたしました。

「婦人会・女性の会」は社会教育団体としていろいろな人との出会いに恵まれ自分を磨くチャンスを与えて頂きました。私にとってこの33年間は、貴重な財産であり、お金では買えない大切な宝物となりました。

福岡県の婦人会の皆様も健康に充分気を付けてられ、自分の「機能」が衰退しない限り、婦人会の中で自分を生かし、地域社会の充実発展のためにご活躍下さい。心よりお願い申し上げます。

長い間お世話になり、本当にありがとうございました。

第75回九州地区 地域婦人大会

日時 令和5年11月15日～16日
場所 鹿児島城山ホテル

テーマ 「自然・あらゆる人々との共存をめざそう！」
利他の心で〜」



開会、セレモニーに続き全女連櫻井よう子会長の御挨拶等があり講演会では鹿児島市西郷南洲顕彰館館長の徳永和喜氏による「明治維新」と「西郷隆盛」のお話を聴きました。その後「組織」「教育」「環境」三分科会に別れ質疑・応答も活発に意見交換が行われ熱気あふれる大会となりました。

懇親会では各県出し物があり福岡県では出席者27名「長生き音頭」を炭坑節で踊りました。他県の会員さんも飛入りで沢山輪の中に入っていた和やかな一日でした。

翌日のシンポジウムでは分科会報告と提言及び全体討議がありました。次回開催は佐賀県です。有意義な二日間でした。



第1分科会 組織の問題

「持続可能な女性達 活動を通して絆を深め組織の拡大につなげよう」
〜できることをできる人ができるときにやろう〜

講師 鹿屋市教育委員会 教育長 中野 健作氏

いちき串木野市は人口26,194人。本市女性連の会員は2,787人、本市女性連は今年で122年目を迎える婦人会です。扱って現在の課題は、女性を取り巻く環

境の変化・高齢化・若い会員の加入減少、そして地域の人口減少や年を取っても働く元気な女性が増えていること。問題解決に向けて、より時代にあった組として「できることをできる人ができるときにやろう」をモットーに――

先ず私たちは、若い世代との交流から組織拡大を目指して、地域で活躍する、若手女性達との取組を一緒に行ったり、応援したりして、それらの活動を発表する機会をつくっている。それによって、交流や絆が深まり、いずれは、地域のリーダーとして、関わってもらえるのでは、と考えています。

女性団体として、子どもから高齢者まで、生きがいをもって安心して暮らしていける地域社会の実現に向けてお互いに学びあい、柔軟な組織で活動を見直しながら、持続可能な取組を積み重ねていくことが大切だと思えました。(江上)

第2分科会 教育の問題

「赤ちゃんとお楽しみブックスタート」
ブックスタートが子どもの未来を紡ぐ第一歩！

日置市は平成17年、東市来、伊集院、日吉、吹上が合併して、人口約4万6千人、女性連絡協議会数は540人余ですが、年々減少しています。しかし会員は「自分たちの組織は地域のためになくてはならないもの」と、信念を持って活動をしています。

ブックスタートとは「赤ちゃんとお楽しみブックスタート」を理念にして1992年イギリスで「絵本による子育て支援」として始まりました。赤ちゃんの体の成長に「ミルク」が必要のように、精神面にも、やさしく語りかける言葉が大切であるとの考え方で、「絵本」を紹介した、かけがえのないひと時を親子が共有することを支援する運動です。



日置市では6ヶ月～8ヶ月健診受診の親子を対象に「絵本2冊」と「ブックスタートおすすめの本のリスト」等を渡しながら読み聞かせを実施しています。母親の先輩として、若いお母さん方にブックスタートの良さを伝える活動を通して、地域の力となり、住み良い地域となるために実践しています。

それが地域のリーダーを生み地域社会とつながっていくと考えています。助言者からは少子高齢化時代働き方が変わり価値観の違いや個人主義もみえる中、日置市女性連は、自ら若い人をサポートし自分の地域は自分で守るという精神はすばらしいとの発言がありました。(川野)

第3分科会 環境の問題

テーマ 「再生の鍵は土と水」
指宿市地域女性連とマイエンザ

女性連から指宿市と連携した「マイエンザ」の普及活動について報告がありました。「マイエンザ」は自然界に存在する原生菌の働きを活性化させることができるため、台所など排水口で使うことにより生活排水をきれいにする事ができる。



うです。(家庭でも作る事が可能)女性連は「マイエンザ」に出会ってから行政と連携・協力して講座を開くなど市民への普及活動を続けています。さらに、マイエンザ協会に加入し、商品の販売活動にも取り組まれています。会長は地球の財産である「水」をいつまでも清らかに保つためにも、皆さんの地域でも、行政や他団体と一緒に「マイエンザ」普及のための行動を是非起こしていただきたいと強調されました。佐賀県では二十年前からEM菌を作っている。他の地区でも十年間作っていたが、高齢化で人手が足りなくなり、やめました。今回の報告を聞いて、「火が付いた。」又やりたいなどの意見がありました。私たちが「マイエンザ」を作り、環境保全に役立てたいと思っております。(重松)

九州大会に向けてのリーダー研修会 教育の問題 「わたしたちができること」 講師 福岡県教育庁教育振興部 坂本真一氏

子どもや家庭が抱える課題は、ヤングケアラー、子どもの自死、引きこもり、不登校、いじめ、家族形態の変容、つながりの希薄化、児童虐待など多様化・複雑化しています。子どもを育てるうえで不安を感じたり、身近に相談相手がない状況にある保護者を、乳幼児期から就学期以降にわたり切れ目なく支援することを家庭教育支援といたします。

又、地域学校協働活動とは、幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして実施する活動です。以前は、学校の課題は学校で、地域の課題は地域でと言う事でしたが、学校と地域が協働でお互いのために取り組んでいく活動です。授業補助、総合的な学習のゲストティーチャー、本の読み聞かせ、校外学習の引率補助、登下校支援、学校の環境整備などがあります。その講話を基に、四人位のグループを作り、「今、私たちに出来ることは」について一人一人出し合い発表しました。(矢野)

福岡県における 結核予防婦人会の活動について

行政と連携しつつも行政の力が及ばない分野できめ細かな活動を行っています。特に「複十字シル運動」については、毎年福岡県知事および県議会議長を表敬訪問し結核予防活動や「複十字シル運動」の関係機関・団体等への周知と募金の協力について依頼を行っています。

また結核予防週間キャンペーンでは、県民の方々に結核についての正しい認識理解を深めて頂くため街頭啓発活動に取り組んでいます。

指導者の育成として毎年実施される講習会に参加して結核予防に関する知識の習得に努めています(今年度は長崎市で九州地区幹部講習会が実施され福岡県の実情を報告しました)。

令和三年には低蔓延国を達成しましたが、今でも一年間に一人以上が発症し命を落としている重大な感染症であること変わりありません。婦人会は会員の高齢化や会員数の減少はありますが、自らの健康を守る活動、若年層や海外から移住された方を含めた地域住民に対する啓発活動に地道に取り組んでまいりたいと考えています。(古場)



↑副知事表敬訪問
日時 令和5年8月2日

←結核予防週間キャンペーン
日時 令和5年9月16日
西鉄ソラリアプラザ

令和5年度がん征圧の集い & 働く世代をがんから守る がん対策推進大会

日時 9月16日(土) 13時~15時30分
場所 ソラリア西鉄ホテル福岡

まず基調講演で「がんを正しく知っていますか?」という演題で、九州大学の加藤聖子教授からがんについてわかりやすくお話し頂きました。次にタレントの麻木久仁子氏と元プロ野球選手の攝津正氏とのトークディスカッションがあり、麻木氏は2010年脳梗塞になり50歳になるのを機に検

令和5年度福岡県自主防災組織 女性防火クラブ等リーダー研修会

日時 令和5年7月12日
場所 久留米シティプラザ

第1部
テーマ 地域の防災をステップアップ
講師 磯打千雅子氏
(香川大学IECMS地域強靱研究センター)

防災から始める町・町作りから始める防災等、実際に地区におもむき、取り組んだ体験のお話でした。

第2部
テーマ 「住民共助による避難所運営」
講師 堀田直孝氏(西原村議会議員)

熊本地震被災者として「トイレの問題」「子どもへの配慮」「女性への配慮」等対応すべき課題も多くあるので地域の団体をまきこんで……。もしも(想定外を想定内!) 早めの避難行動。今、各地で線状降水帯による被害が多いので、自分の命は自分で守ること。日頃から防災意識をもって地域でしっかり取り組むことが大切だと思えました。(江上)

診されたら初期の乳がんが見つかり早期治療ができて、検診の大切さを伝えられました。

また攝津氏は引退直後の2021年「慢性骨髄性白血病」と診断されたことを公表されて、正しい病気の知識と骨髄バンクの理解をメディアや講演を通じてメッセージされているそうです。

日本では昭和五十六年以後がんが死因の第一位を占め続けています。がん医療の進歩によって、治せる病気になりつつあります。

そのためには検診により早期発見・早期治療が大切です。今回の研修会で学んだことをまわりにも伝え、一人でも多くの方が受診されればと思います。(廣石)

第61回こども交通安全大会

期日 令和5年7月13日
場所 福岡市科学館

交通安全の確保に小学生が主体となって活動し、かつ、教職員、保護者等が積極的に交通安全に取り組んでいる小学校の表彰を行うことにより、県内の小学校における交通安全意識を高揚し、子どもの交通事故の防止を図ることを目的に開催されました。

学童交通安全運動実践優秀校表彰式では、最優秀賞3校、優秀賞3校、優良賞3校、奨励賞11校が受賞されました。

受賞した子どもたちの元気一杯の受け答えや姿に微笑ましく心が和みました。

その後、福岡市科学館の職員による科学をテーマにしたサイエンスショーが目の前で繰り広げられ参加した子どもたちも大人も大いに楽しむことが出来ました。

第2部では、福岡県警察音楽隊による演奏にて幕を閉じました。



(矢野)

第39回福岡県交通安全県民大会

日時 令和5年11月10日(金)
場所 福岡県国際会議場

始めに主催者として生嶋副知事始め三名のご挨拶のあと2023年交通安全功労者等の表彰式があり、交通安全宣言と続いて福岡県警察音楽隊による演奏で閉会しました。

2023年交通安全年間スローガン

- 運転は ゆとりとマナーの 二刀流
- 自転車に 乗るならば ヘルメット
- べだるこぐ ぼくのあいぼう へるめつと

交通安全母の会連絡協議会の活動

春の交通安全フェア
日時 令和5年5月11日(木) 13時30分~15時
場所 さらばーと福岡
参加者 25名

交通安全母の会理事会
日時 令和5年6月15日(木)
場所 婦人会々議室
参加者 9名

第六十一回子ども交通安全大会(文章あり)
日時 令和5年7月13日(水)
場所 福岡市科学館
参加者 22名

飲酒運転撲滅大会(文章あり)
日時 令和5年8月25日(金)
場所 久留米市石橋文化センター共同ホール
参加者 32名

福岡県交通安全県民大会
日時 令和5年11月10日(金) 13時~15時
場所 国際会議場
参加者 57名

交通安全リーダー研修会
日時 令和5年12月13日(水)
場所 ふつつけいコアセンター
参加者 11名

九州八県赤十字大会 佐野常民生誕二百年記念

日時 令和5年11月15・16日
場所 佐賀アリーナ

「金色有功章」(125名)「銀色有功章」(114名)の2部に分かれて表彰がなされました。多くの方が日本赤十字社へ多額の協力をなさっていることに感動しました。

前日の15日に「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」の見学をしましたが、すばらしい歴史館が作られていて、いかに、佐野氏が日本の為に貢献されたかを感じることが出来ました。

地域だより

芦屋海岸

クリーンキャンペーン開催

日時 令和5年10月22日(日)

遠賀町婦人会

毎年1回開催されてきましたが、コロナの為4年振り(第21回)の開催となりました。芦屋町長の挨拶があり一級河川遠賀川流域の人々が川の最下流の芦屋町海岸に流れついたゴミを收拾する為ボランティア(幼稚園児・高校生・老人会・会社関係・婦人会・行政等)320名が集まりました。

直方高校生40名がバスで参加したのが印象的でした。3班に分かれて海岸の岩場でペットボトル・びん・空き缶・枯枝・発砲スチロール・車のタイヤ等海岸に沢山流れていました。

ゴミを捨ててはいけないと一人一人が気を付けなければいけないと気づかされた海岸クリーンキャンペーンでした。



歯舞昆布料理教室

大木町女性の会

9月17日に歯舞昆布料理教室を開催いたしました。管理栄養士の講師の話し、昆布は海の野菜と言われていたほど栄養価が高く、それ以上に海のミネラル分を何十倍も含んでいることなど説明を受けました。今回の講習会では5品も紹介され昆布料理を幅広く知り美味しくいただきました。参加者も大変喜んであり、会食時はそれぞれ工夫したことや日ごろの昆布料理について話が弾みました。また、早煮昆布の販売を行ったところ、ご協力いただき完売いたしました。今後も販売促進につながればと思っております。

今後の活動予定として、昨年度に続き、1月に町内の女性の地区役員さんを対象に研修会を開催します。女性の会主催で当日の運営をいたしますが、自治区長さんにご協力いただき参加者を募っていただいております。地域の女性が元気に活躍できるきっかけになるよう企画しています。今年は、久留米大学の内村直尚氏より睡眠の大切さについてご講演いただきます。



平和問題研修会

久留米市女性の会連絡協議会

女性の会では、毎年八月に平和問題の研修会を開催しております。

今年は8月29日(火)久留米市中央図書館ライブラリーにて、「サクラ花最後の特攻」のDVD試写会がありました。大戦末期最後の特別特攻兵器「桜花」プロペラも、車輪も燃料すら無く、ただ敵艦に向かって突撃し、二度と生きて戻れない小型機です。

出撃させる上層部は、人権などなく残酷で、人々を思いう気持ちはも蝕む戦争…。庶民は平和を願っているのに、少数の権力者が世界を不幸に導き、多くの尊い命を有無を言わず失わせます。

戦争は絶対にしてはいけないのです。二度と悲しい出来事が起こりませんように次世代へ平和の尊さを語り伝えていくことが、大切だと強く思いました。



平和問題研修会

久留米市女性の会連絡協議会

DVD鑑賞『サクラ花』

桜花最後の特攻

「火の用心」啓発活動

福津市女性防火クラブ

あなたの家は大丈夫ですか？

我が家の防火チェック

- *ご近所同士で声をかけあい火の用心に心掛けましょう
- *調理中はコンロから離れないようにしましょう
- *寝たばこは、絶対にやめましょう
- *ストーブの周りに、物を置かないようにしましょう
- *コンセントの掃除を心掛けましょう
- *子どもの手の届く場所にライターやマッチを置かないようにしましょう
- *家の周りを整理整頓しましょう
- *住宅用火災警報器を設置しましょう

福津市女性防火クラブは、宗像地区消防本部及び宗像地区防災協会と共働で、一般財団法人消防試験センターの助成金を活用して「火の用心」を呼びかけチラシと圧縮タオルを各々の自治会や各種団体又、個別訪問して配付しました。地域の夏祭りでも「火の用心」についての啓発品(トイレットペーパー)を来場者へ配布することが出来ました。

火事は放火以外は自分で防ぐことができます。防火チェックを心掛けましょう。



編集後記

コロナもろ類に入り、様々な活動も元に戻りつつあります。今年度は一月号を発行することが出来ました。皆様の投稿ありがとうございました。

編集委員

池田穂波、川野栄美子、安河内浩子、廣石福子、横溝敏子、矢野八重子、古場弘子、江上昭子